

新宿区第二次実行計画策定に向けた 区民討議会実施報告書 (概要版)



開催日時：平成23年10月22日(土)・23日(日)
午前10時～午後5時(両日)

平成23年11月
新宿区

目 次

	ページ
1 新宿区第二次実行計画の基本的考え方.....	1
2 第二次実行計画策定に向けた区民討議会について.....	3
3 区民討議会の実施概要.....	4
4 区民討議会の進め方.....	5
5 区民討議会プログラム.....	7
6 討議対象事業の主な意見と評価・判定結果	9
参考資料 1 参加者の属性	4 1
参考資料 2 参加者名簿	4 4

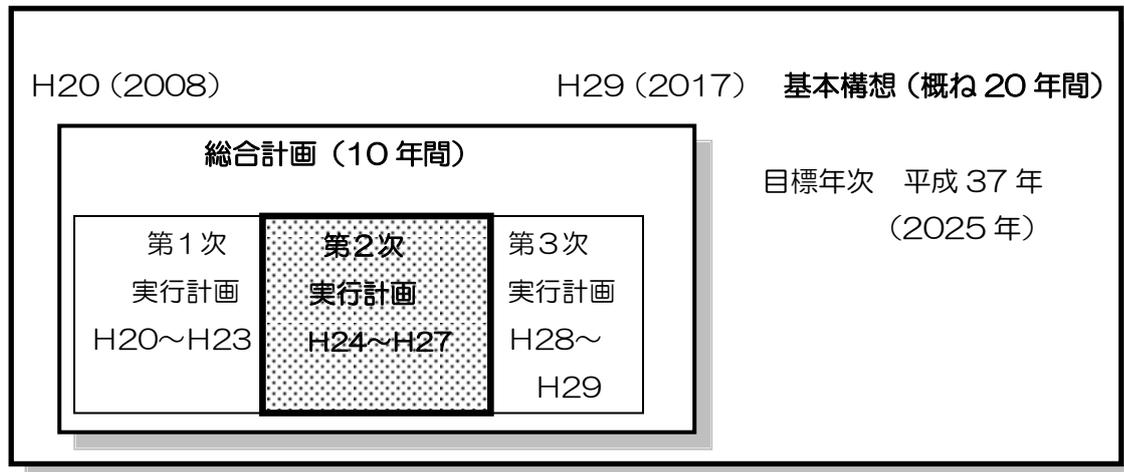
1 新宿区第二次実行計画の基本的考え方

(1) 計画の目的・性格

この実行計画は、新宿区基本構想に定めた「めざすまちの姿『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」の実現をめざし、新宿区総合計画に示した施策を具体の事業として計画的に実施していくために策定する行財政計画であり、区政運営の具体的指針となるものです。

(2) 計画の期間

第二次実行計画の計画期間は、平成 24（2012）年度から平成 27（2015）年度までの4か年です。



(3) 計画の構成

計画は、総合計画の構成を受け、「まちづくり編」と「区政運営編」の二編で構成します。

「まちづくり編」では、まちづくりに係る事業を示し、「区政運営編」ではまちづくり事業を推進し、下支えする事業を示します。

なお、計画には、財源の裏づけをもって計画的・優先的に実施する「計画事業」と経常的に実施する「経常事業」を示します。このことにより、区が実施する施策や事業の全体像を明らかにします。

(4) 計画策定の基本的考え方

厳しい財政環境の中、基本構想や総合計画で示した方針を実現するためには、限られた資源の有効活用と重点的・効果的な財源配分を徹底し、区民に最も身近な基礎自治体として、区民の目線で、区民が真に必要とするサービスを効果的・効率的に提供していかなければなりません。また、現場現実を重視した柔軟で総合性の高い区政、公正で透明性の高い区政、多くの区民との協働と参画による区政を実現していくことが必要です。

第二次実行計画は、こうした視点を踏まえ、下記の考えに基づき策定することとしました。

- (1) 第二次実行計画は、行政評価の結果を十分踏まえるとともに、多様な区民の声を取り入れた計画とします。
- (2) 社会状況の変化に伴う新たな行政需要や区民生活が直面する課題等に的確に対応した計画とします。
- (3) 限られた財源を重点的・効果的に配分した計画とし、施策や事業の「選択と集中」を図るものとします。

2 第二次実行計画策定に向けた区民討議会について

■無作為抽出された区民による討議会

新宿区では、基本構想に定めた「めざすまちの姿」を実現するため、平成 24 年度から 27 年度までに区が計画的・優先的に推進していく事業を取りまとめた「第二次実行計画」を策定します。

第二次実行計画の策定では、より多くの区民の意見を聴き、透明性の高い計画とするため、これまで区が行ってきた地域説明会やパブリック・コメントなどに加えて、区民から選出された参加者による「区民討議会」を開催することにいたしました。

区民討議会と名づけられたこの会議は、区民から「無作為抽出」で参加者を募ることにより、区政に対して発言する機会の少ない区民の方々が、世代や職業を越えて集い、まちづくりについて話し合い、その声を行政に届け、区民が直接参加・参画するきっかけを作る新しい仕組みです。

ドイツで行われている「プラーヌクスツェレ」という市民参加方式がモデルになっています。新宿区では、昨年の自治基本条例素案の取りまとめにあたり区民討議会を開催しましたので、今回が 2 度目の実施になります。

■55 名の参加者が 3 つのグループに分かれ討議

無作為に抽出した 18 歳以上 1,200 人の区民のうち、参加申込みのあった 94 名の応募者から抽選で 60 名（ただし、討議会当日の参加者は 55 名）が選出され、10 月 22 日、23 日の 2 日間にわたって討議を行いました。

討議会は、55 名の参加者を A、B、C 3 つのグループに分け、各グループごとに討議対象テーマを設定しました。各グループは、1 班を 4～5 名とする 4 つの班に構成し、班単位で同じテーマの討議を行い、1 つのテーマが変わるたびに班のメンバーを入れ替えて討議を進めました。

■準備会の設置

区民討議会の実施にあたり、討議会のテーマや、その運営方法、プログラム、報告書の作成方法などについて検討するため、学識経験者 3 名と区職員 3 名の計 6 名による区民討議会準備会を立ち上げ、5 回にわたり検討しました。

3 区民討議会の実施概要

① 討議参加者のグループ分け

討議参加者 55 名は、A、B、C 3つのグループ（A19 名、B18 名、C18 名）に分かれます。各グループでは 1 班 4～5 名で 4 班を編成します。グループ内の班のメンバーは、テーマごとに入れ替えます。他のグループとのメンバーの入れ替えはありません。

② 専門家による情報提供

討議の前にテーマに沿った情報提供をします。新宿区が策定する第二次実行計画の素案事業に対して討議をするため、テーマごとに事業を担当する区の職員が事業内容を説明します。さらに、外部の有識者が質疑応答形式で、第三者の視点から、分かりやすく事業のポイントとなる論点を示すことで、討議参加者の皆さんがより具体的に考えることができるようにしました。

③ 討議参加者だけで討議・意見を集約・投票

討議は参加者の皆さんだけで班ごとに行います。討議の進行についての質問にはスタッフが回答しますが、討議には参加しません。2 日間で各グループ 6 回の討議がありますが、1 回ごとにメンバーの入れ替えをするため、多くの参加者と偏りなく意見交換・討議ができます。

班の討議の結果を討議ボード（模造紙）にまとめながら、班としての意見を記入し、班ごとにグループ内で発表しました。参加者は各班の発表を聞き、各事業について評価と判定を個人投票で行いました。

投票結果はグループ単位で集計し、討議終了後に発表しました。

④ 討議結果「報告書」の作成・公表

討議の結果は、区民討議会準備会で報告書にまとめ公表します。本書は報告書の概要版です。後日、各グループ・班別の討議内容や参加者のアンケート結果などを掲載した報告書を区民討議会準備会で作成し、公表します。

⑤ 参加者への謝礼

区民の皆さんには時間を割いてこの討議会に参加していただいたため、各参加者には 2 日間で 1 2, 000 円の謝礼をお支払いしました。

4 区民討議会の進め方

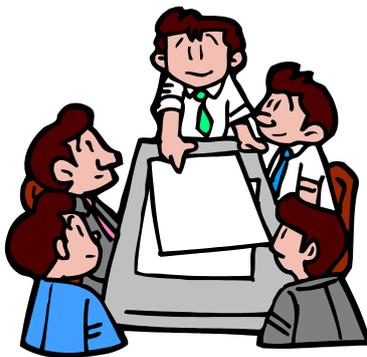
1. 3つのグループに分かれ情報提供を聞きます

ただし、1日目の最初の討議だけは、グループに分かれず、全員で情報提供を聞きます。

討議の対象となる事業計画について、区の担当職員が質疑応答形式で情報を提供します。



2. 班に分かれ討議します



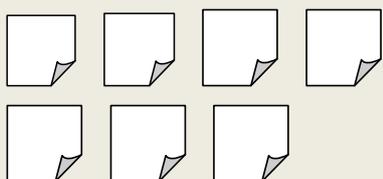
書いて貼る

それぞれが
自分の思う意見を
どんどん付箋に
書いて貼ります

付箋をまとめ
ながら討議

話し合いをしながら意見をまとめていきます

討議ボード（模造紙）

A-1 グループ	メンバー：4～5名
討議テーマ	○○○○○○計画事業 ・□□□□（枝）事業
	
主な意見（5つまで）	

3. 各グループ発表・投票

- 各グループで班ごとに順番に発表をします。
- その後、参加者それぞれに投票用紙を配布します。
討議した事業について、評価（事業の必要性、緊急性など）と判定（拡大、原案どおり、縮小など）の投票をします。
- 投票結果は、次の討議時間が始まる前に集計し、グループごとに掲示します。

4 個人投票用紙

- グループ発表後、参加者それぞれに投票用紙を配布します。
- 討議した事業について、評価（事業の必要性、緊急性、手法の適切性）と判定（拡大、原案どおり、縮小、廃止）の投票をします。
- グループごとに投票を集計し、発表します。

投票用紙 討議① A-1班

■○○○○○○○○事業

1. 評価

評価項目	評価点												
必要性	<table style="width: 100%; text-align: center;"><tr><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td colspan="4"> ----- ----- ----- </td></tr><tr><td colspan="2">大いにある ←</td><td colspan="2">ない</td></tr></table>	3	2	1	0	----- ----- -----				大いにある ←		ない	
3	2	1	0										
----- ----- -----													
大いにある ←		ない											
緊急性	<table style="width: 100%; text-align: center;"><tr><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td colspan="4"> ----- ----- ----- </td></tr><tr><td colspan="2">大いにある ←</td><td colspan="2">ない</td></tr></table>	3	2	1	0	----- ----- -----				大いにある ←		ない	
3	2	1	0										
----- ----- -----													
大いにある ←		ない											
手法の適切性	<table style="width: 100%; text-align: center;"><tr><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td colspan="4"> ----- ----- ----- </td></tr><tr><td colspan="2">大いにある ←</td><td colspan="2">ない</td></tr></table>	3	2	1	0	----- ----- -----				大いにある ←		ない	
3	2	1	0										
----- ----- -----													
大いにある ←		ない											

2. 判定

拡大	原案どおり	縮小	廃止
----- ----- -----			

評価、判定ともに、4つの選択肢のいずれか1つだけを○で囲んで投票してください。

5 グループチェンジ

- 討議テーマごとに班が変わりますので、休み時間の間に次の班の席にお荷物を持って移動します。

5 区民討議会プログラム

1日目 (10月22日) 10:00~17:00

時間	会議内容	討議テーマ (討議対象の計画事業と枝事業)		
		Aグループ (19名・4班)	Bグループ (18名・4班)	Cグループ (18名・4班)
10:00	開会 ・区長挨拶 ・第二次実行計画概要説明 (財政フレーム含む) ・討議会の運営説明			
10:40	討議① ・情報提供⇒各グループ会場へ移動し討議 ・まとめ・発表 ・投票	<u>新宿の魅力の発信</u> ①新宿フィールドミュージアムの展開 *討議①では、全体で同じテーマを討議しました。		
12:05	昼食・休憩 ⇒メンバーチェンジ			
13:00	討議② ・情報提供・討議 ・まとめ・発表 ・投票	<u>災害情報システムの再構築</u> <u>災害用避難施設及び備蓄物資の充実等</u>	<u>建築物等の耐震性強化</u> ①建築物等耐震化支援事業 ②擁壁・がけ改修等支援事業	<u>道路・公園の防災性の向上</u> ①道路・公園の治水対策 ②道路・公園擁壁の安全対策 ③公園における災害対応施設の整備
14:45	休憩 ⇒メンバーチェンジ			
15:00	討議③ ・情報提供・討議 ・まとめ・発表 ・投票 *グループによって時間延長 (10分程度) あり	<u>NPO や地域活動団体等、多様な主体との協働の推進</u> ①協働事業提案制度の推進 ②協働推進基金を活用した NPO 活動資金助成 ③NPO をはじめ地域を支える社会活動団体のネットワークの拡充 ④協働促進のための情報提供	<u>道路の温暖化対策</u> ①環境に配慮した道づくり ②道路の節電対策	<u>新宿らしいみどりづくり</u> ①みんなでみどり公共施設緑化プラン ②空中緑花都市づくり ③樹木・樹林等の保存支援
17:00	終了予定			

2日目 (10月23日) 10:00~17:00

時間	会議内容	討議テーマ (討議対象の計画事業と枝事業)		
		Aグループ (19名・4班)	Bグループ (18名・4班)	Cグループ (18名・4班)
10:00	<p>討議④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供・討議 ・まとめ・発表 ・投票 <p>*グループによって時間延長 (10分程度) あり</p>	<p><u>地球温暖化対策の推進</u></p> <p>①区民の低炭素な暮らしとまちづくりへの取り組みの促進・支援</p> <p>②事業者の低炭素な暮らしとまちづくりへの取り組みの促進・支援</p> <p>③区が率先して取り組む地球温暖化対策</p>	<p><u>ごみ発生抑制を基本とするごみの減量とリサイクルの推進</u></p> <p>①資源回収の推進</p> <p>②プラスチックの資源回収の推進</p> <p>③ごみの発生抑制の推進</p>	<p><u>自転車等の適正利用の推進</u></p> <p>①駐輪場等の整備</p> <p>②放置自転車の撤去及び啓発</p> <p>③自動二輪車の駐車対策</p>
11:50	<p>昼食・休憩 ⇒メンバーチェンジ</p>			
12:50	<p>討議⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供・討議 ・まとめ・発表 ・投票 <p>*グループによって時間延長 (10分程度) あり</p>	<p><u>路上喫煙対策の推進</u></p>	<p><u>高齢者を地域で支えるしくみづくり</u></p> <p>①認知症高齢者支援の推進</p> <p>②地域安心カフェの展開</p> <p>③支援付き高齢者住宅の整備</p>	<p><u>保護者が選択できる多様な保育環境の整備</u></p> <p>①私立認可保育所の整備支援</p> <p>②認証保育所への支援</p> <p>③保育園・幼稚園の子ども園への一元化</p>
14:35	<p>休憩 ⇒メンバーチェンジ</p>			
14:50	<p>討議⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供・討議 ・まとめ・発表 ・投票 	<p><u>地域協働学校 (コミュニティ・スクール) の推進</u></p>	<p><u>障害者、高齢者、若年非就業者等に対する総合的な就労支援</u></p> <p><u>雇用促進支援の充実</u></p>	<p><u>新中央図書館等の建設</u></p> <p><u>図書館サービスの充実 (区民に役立つ情報センター)</u></p>
16:30	<p>⇒大会議室へ移動 アンケート、閉会挨拶、謝礼支払い</p>			
17:00	<p>終了予定</p>			

6 討議対象事業の主な意見と評価・判定結果

1日目 討議① A・B・Cグループ (55名)

新宿の魅力の発信

①新宿フィールドミュージアムの展開

1) Aグループ (19名)

<班別の主な意見>

A-1

- ・過去の遺産だけではなく、国際化に向けても発信するのに、ホテル・都庁・企業などと重点ポイント作りとしてほしい
- ・サービス産業で雇用を生み出す-豊かさを実現していくため(路上ライブなど…区民 定期的に月1)
- ・経費がかかりすぎる(1年で2千万円くらい)、収支報告を区民にわかるように(無駄をなくすため)

A-2

- ・そこに集まった人々が被災者になった場合の対策も1つの柱として考えてほしい
(例) デイズニーランドの3.11
- ・健康な人だけではなく、参加困難な人への対策
- ・歌舞伎町のイメージ・・・何となく今は怖い

A-3

- ・若年層を意識した企画が少ない(小・中・高)
- ・若年層に対するアピール性の欠陥 携帯・スマートフォン・学校の課外授業取り込み
- ・緑化事業なども取込み環境=文化とする
- ・新宿で育つ子供、教育を受ける人に新宿に対する愛情が生まれる様な課外授業に利用

A-4

- ・区外向けの情報発信は十分なので、区民向けの発信に力を入れるべき
- ・地域振興も兼ね、地元や学校等もまきこんだ取り組みとすべき
- ・区がやる分野は人気観光地ではない地域のPRに力を入れるべき

■事業評価・判定

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	8名	11名	0名	0名	2.4
緊急性	2名	9名	6名	2名	1.6
手法の適切性	2名	6名	10名	1名	1.5

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
6名	10名	1名	1名	1名

2) Bグループ (18名)

<班別の主な意見>

B-1

- ・事業内容については賛成
- ・インターネット、パンフレット両方のアピールが足りない
- ・お金の問題
- ・名称がわかりづらい
- ・期間が短い

B-2

- ・「これぞ新宿」と思わせる様なイベントが必要
- ・民間、事業者の自由な参加
- ・費用対効果を重視
- ・外国人への有効なPR
- ・ボランティアの有効活用

B-3

- ・経済効果重視 (イベントでの物販等)
- ・新宿ブランド作製

B-4

- ・「フィールドミュージアム」名前が悪い
- ・地域が偏っている
- ・新宿区に愛着を持ってもらいたい?
- ・税金がほしい ラーメンや繁栄 観光誘致

■事業評価・判定

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	5名	8名	5名	0名	2.0
緊急性	0名	4名	11名	3名	1.1
手法の適切性	0名	4名	12名	2名	1.1

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
5名	7名	5名	1名

2) Cグループ (18名)

<班別の主な意見>

C-1

- ・場所が分かりにくい
- ・何をしているのか、内容がわからない
- ・興味がわからない
- ・それ以外の事で忙しくて(年齢的に)手がまわらない
- ・ギャラリーオーガードみるっぐ 展示方法を一考 明るい照明を使ってイメージを考え
た方がいい

C-2

- ・最終目的が判らない(何を発信したいのか、しなくちゃいけないのか)
- ・テーマがぼやけているし、対象もぼやけている
- ・短期および住んでいる外国人向けのガイドがないし、その人達向けなら日本文化も強調
した方がいい
- ・やるなら町名とかにキャッチフレーズをつけたインスピレーションがわくようにしたら
どうか
- ・あちこちでいろいろやるのもよいが、1か所で長期にいつもやっているものも必要

C-3

- ・区民にもっとアピールが必要
- ・掲示板を使用してアピール
- ・掲示板にパンフをいれるポケットの設置
- ・パンフレットの置き場所の拡大
- ・大久保通りの韓国文化の提案

C-4

- ・新宿の魅力を発掘し発信していくという基本方針には賛成
- ・誰に対し発信しているのか、この活動の先に何があるか良くわからない
- ・パンフレットが多過ぎる
- ・各事業の歴史的な意味が良くわからない

■事業評価・判定

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	6名	8名	2名	2名	2.0
緊急性	0名	7名	6名	5名	1.1
手法の適切性	1名	6名	6名	5名	1.2

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
0名	6名	9名	2名	1名*

*白票は「必要性はあるが、根本的な目的を変える」と記入

4) A・B・Cグループ 総計(55名)

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	19名	27名	7名	2名	2.1
緊急性	2名	20名	23名	10名	1.3
手法の適切性	3名	16名	28名	8名	1.3

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
11名	23名	15名	4名	2名

1日目 討議② Aグループ (19名)

災害情報システムの再構築

災害用避難施設及び備蓄物資の充実等

<班別の主な意見>

A-1

- ・備蓄の適正な配置（薬を特に）の検討と企業との連携強化
- ・防災無線の使い方を検証し、必要な情報を的確に届ける体制整備
- ・区民の自助意識の育成 そのために具体的な行動に結びつく訓練の実施、備蓄の準備の奨励

A-2

- ・弱者に対する情報提供方法を充実する
- ・災害時の情報提供のため AM ラジオの活用を充実する
- ・区境近くに住んでいる場合、隣の区の施設を利用できるようにする(ex 目白通りの場合、新宿区と豊島区)
- ・短期計画で完了してほしい

A-3

- ・都がやっているような防災訓練を区でも行ってほしい。例えば体育館を利用した被災者体験等
- ・大きな組織（商業施設、会社）に対する情報伝達 帰宅しなくても安否確認できるシステム
- ・災害要援護者名簿について 高齢で認知症の一人暮らしの方・高齢で日中独居の方・透析など持病についての把握・障害児のいらっしゃる家族 どうなっているか 地域住民がどうしてあげられるか
- ・コンビニ ガソリンスタンド 備蓄場所として義務づける 個人宅設置義務づけ（笛）
- ・公園 公共施設の通常はベンチで、緊急時、簡易トイレになる場所がどこか分かるようにしてもらいたい 数を増やしてもらいたい

A-4

- ・他自治体と共通の基盤・やり方を作ってほしい
- ・各家に防災ラジオ・避難地図の配布を
- ・小さなコミュニティでの避難訓練を

■事業評価・判定

1) 災害情報システムの再構築

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	17名	2名	0名	0名	2.9
緊急性	19名	0名	0名	0名	3.0
手法の適切性	10名	7名	2名	0名	2.4

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
10名	7名	0名	0名	2名

2) 災害用避難施設及び備蓄物資の充実等

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	17名	2名	0名	0名	2.9
緊急性	15名	4名	0名	0名	2.8
手法の適切性	10名	7名	2名	0名	2.4

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
9名	8名	0名	0名	2名

1日目 討議② Bグループ (18名)

建築物等の耐震性強化

- ①建築物等耐震化支援事業
- ②擁壁・がけ改修等支援事業

<班別の主な意見>

B-1

- ・火災対策もあわせたほうが良い(大震災)
- ・優先度と重要度を考慮して進めた方が良い
- ・国、都、鉄道会社、民間企業と調整し、財源を決めた方が良い
- ・目標に対して進捗が遅すぎる

B-2

- ・昭和56年以降、以前にしばらく耐震診断はすべての家屋を対象に
- ・危険な擁壁箇所には看板等で知らせてほしい
- ・補助金について告知不足

B-3

- ・擁壁・がけ改修は今の計画より、もっと早く進めてほしい
- ・耐震補強・診断をもっとアピールするべき
- ・耐震補強の補助金の増額を希望

B-4

- ・擁壁・がけ改修は今の計画より、もっと早く進めてほしい
- ・耐震補強・診断をもっとアピールするべき
- ・耐震補強の補助金の増額を希望

■事業評価・判定

1) 建築物等耐震化支援事業

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	14名	2名	2名	0名	2.7
緊急性	14名	2名	2名	0名	2.7
手法の適切性	4名	5名	8名	0名	1.7

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
11名	5名	1名	0名	1名

2) 擁壁・がけ改修等支援事業

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	13名	3名	1名	1名	2.6
緊急性	13名	3名	0名	2名	2.5
手法の適切性	5名	6名	5名	1名	1.8

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
11名	5名	2名	0名

1日目 討議② Cグループ (18名)

道路・公園の防災性の向上

- ①道路・公園の治水対策
- ②道路・公園擁壁の安全対策
- ③公園における災害対応施設の整備

<班別の主な意見>

C-1

- ・防災対策は必要、今できることからやってほしい
- ・検討過程が知りたい（道路の透水性舗装が最適か）（緑化による保水性確保）

C-2

- ・舗道の日づまり対策で傾斜になっているのは良いが、歩行者の安全性からみてどうか？（車いす、ベビーカー系）
- ・防災マップの配布とイベント等で、防災トイレや井戸等を紹介するのはどうか（ゲーム感覚で）
- ・公園の非常用電源はどうなっているのか（防災マップにのせたらどうか）
- ・道路や樹木が倒れた時の情報はどうやって知るのか？
- ・危険をどうやって知るのか？防災トイレは誰が設置するのか（管理者がわからない）

C-3

- ・簡易トイレを各家に配ってほしい
- ・とにかくトイレをいっぱい作ってほしい
- ・豪雨対策を時間あたり100mmまで上げてほしい
- ・区民が使う私道は区のお金で整備してほしい 工事のあと点検して
- ・雨水と雨水を貯める空間をもっと有効に使えないのか

C-4

- ・防災トイレの設置場所・使用方法を区民に知らせてほしい
- ・風に対する対策の検討を始めてほしい

■事業評価・判定

1) 道路・公園の治水対策

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	11名	7名	0名	0名	2.6
緊急性	11名	6名	1名	0名	2.6
手法の適切性	10名	6名	2名	0名	2.4

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
9名	8名	0名	0名	1名

2) 道路・公園擁壁の安全対策

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	12名	5名	1名	0名	2.6
緊急性	12名	4名	2名	0名	2.6
手法の適切性	12名	5名	1名	0名	2.6

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
9名	7名	1名	0名	1名

3) 公園における災害対応施設の整備

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	13名	5名	0名	0名	2.7
緊急性	14名	4名	0名	0名	2.8
手法の適切性	12名	6名	0名	0名	2.7

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
13名	4名	0名	0名	1名

1日目 討議③ Aグループ (19名)

NPO や地域活動団体等、多様な主体との協働

- ①協働事業提案制度の推進
- ②協働推進基金を活用した NPO 活動資金助成
- ③NPO をはじめ地域を支える社会活動団体のネットワークの拡充
- ④協働促進のための情報提供

<班別の主な意見>

A-1

- ・第三者機関の監視体制の強化
- ・コスト分析・・・どの事業にどれだけの費用がかかっているのか明確に
- ・団体の数を増やさない 行政のコントロールが出来ず活動が浅くなる

A-2

- ・具体的な活動内容がわからない
- ・情報提供・情報公開→重要度（ランク分け等）・緊急性をわかりやすく
- ・決定過程に区民の声を
- ・採用事業の継続的評価

A-3

- ・NPO と区が対等な関係を築くことができるよう、自立した NPO 育成が事業全体の基本方針
- ・ふれあい広場を NPO 育成の中核地として活用（自立までの一定期間、オフィス貸与。ノウハウ提供、共有等、好循環の仕組み作りが大事）
- ・基金により寄付が集まる仕組み作り大事（寄付の効果が見える形でサポーターをまきこむ仕組み）
- ・情報発信には更なる工夫が必要

A-4

- ・基金の管理・運用の厳格化が必要
- ・助成金によって管理・審査コストをかけるより、自由にして側面支援すべき
- ・「ふれあい広場」の目的・実態が不明（人件費？）

■事業評価・判定

1) 協働事業提案制度の推進

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	4名	13名	2名	0名	2.1
緊急性	3名	5名	9名	2名	1.5
手法の適切性	2名	11名	6名	0名	1.8

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
3名	12名	4名	0名

2) 協働推進基金を活用したNPO活動資金助成

<評価>

評価項目	評価点	(大いにある ←————→ ない)				平均点
		3点	2点	1点	0点	
必要性		3名	10名	6名	0名	1.8
緊急性		2名	7名	9名	1名	1.5
手法の適切性		1名	10名	6名	2名	1.5

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
1名	11名	5名	1名

3) NPOをはじめ地域を支える社会活動団体のネットワークの拡充

<評価>

評価項目	評価点	(大いにある ←————→ ない)				平均点
		3点	2点	1点	0点	
必要性		7名	9名	2名	1名	2.2
緊急性		2名	9名	6名	2名	1.6
手法の適切性		3名	9名	6名	1名	1.7

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
2名	15名	2名	0名

4) 協働促進のための情報提供

<評価>

評価項目	評価点	(大いにある ←————→ ない)				平均点
		3点	2点	1点	0点	
必要性		9名	10名	0名	0名	2.5
緊急性		7名	7名	4名	1名	2.1
手法の適切性		4名	7名	7名	1名	1.7

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
4名	10名	4名	0名	1名

1日目 討議③ Bグループ (18名)

道路の温暖化対策

①環境に配慮した道づくり

②道路の節電対策

<班別の主な意見>

B-1

- ・なぜこの方法を取り入れたのか？（遮熱性舗装、低VOC塗料）
- ・新宿区だけの問題では収まりきらない（他の都市、区の連携が必要）
- ・あえて新宿区に木製防護柵が必要か？
- ・街路灯は早めにLED街路灯を導入

B-2

- ・遮熱性舗装：歩道に限定、新塗料、除染を先に
- ・木製防護柵：鉄に比べて頑丈？間伐材は別の用途にも
- ・低VOC塗装：費用対効果に疑問
- ・LED：初期費用は高いが、世界の流れ
：外灯は、太陽光パネル・バッテリーとの併用を

B-3

- ・遮熱性舗装は良いのでぜひ推進していきたい
- ・低VOCについては環境汚染軽減の観点から適用だけではなく他もしていきたい
- ・繁華街のイメージアップの為に木製防護柵を設置する
- ・蛍光灯が切れたら、LEDに交換していく

B-4

- ・環境に配慮した道づくりの3題は必要性が感じられない
- ・街路樹を増やしてほしい
- ・LED街路灯は率先して増やしてほしい
- ・街路灯にソーラーパネルをつけ自家発電できるようにしてはどうか？

■事業評価・判定

1) 環境に配慮した道づくり

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	4名	7名	4名	3名	1.7
緊急性	2名	5名	9名	2名	1.4
手法の適切性	3名	5名	7名	3名	1.4

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
2名	7名	5名	4名

2) 道路の節電対策

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	10名	5名	1名	2名	2.3
緊急性	4名	9名	3名	2名	1.8
手法の適切性	7名	8名	2名	1名	2.2

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
6名	10名	0名	2名

1日目 討議③ Cグループ (18名)

新宿らしいみどりづくり

- ①みんなでみどり公共施設緑化プラン
- ②空中緑花都市づくり
- ③樹木・樹林等の保存支援

<班別の主な意見>

C-1

- ・「新宿らしさ」はデザイナー（公募等）をつけて都会らしく考えた方がよい
- ・川添のツタは涼しそう（美しい）なのでもっとふやしてほしい
- ・地震を経験して、屋上の緑化は難しい（ソーラーに負ける）
- ・今後建設する建物には、一定の補助を出してはどうか
- ・樹木に対し、一律の補助はやめて、所得制限を設ける（神社・寺は制限する）

C-2

- ・個人で緑化するのは難しいので公共施設で緑化していくのは良いと思う
その際、長期的（4年以上）な目標を具体的に持つべき
- ・区立公園 災害時避難場所としての活用と緑の保護との両立を
- ・ハンギングバスケットは、根付かない・高所で見にくい等、採用はいかがなものか
- ・大きい樹木は生活者として癒されます 保存支援に賛成
- ・緑を増やすこととして、「花の名所として（つつじ）（けやき）の公園作り」
「屋上緑化に野菜作り」をとり入れ区民参加を促す

C-3

- ・緑化の助成の拡大（アフター管理）
- ・区民への協力の連携方法を考えてほしい
- ・業者への技術・知識の指導・管理をしてほしい
- ・屋上緑化の補助の基準をきめ細かくしてほしい

C-4

- ・子供たちが集まる公園に緑を増やす（で充分）
- ・空中緑化はビルを傷めることもあるし、よく、見えない
- ・今ある樹木をちゃんと管理してほしい（水やり車が走ってない）

■事業評価・判定

1) みんなでみどり公共施設緑化プラン

<評価>

評価項目	評価点	(大いにある ←————→ ない)				平均点
		3点	2点	1点	0点	
必要性		7名	7名	4名	0名	2.2
緊急性		0名	7名	9名	2名	1.3
手法の適切性		1名	8名	7名	2名	1.4

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
3名	9名	6名	0名

2) 空中緑花都市づくり

<評価>

評価項目	評価点	(大いにある ←————→ ない)				平均点
		3点	2点	1点	0点	
必要性		0名	6名	8名	4名	1.1
緊急性		0名	4名	9名	5名	0.9
手法の適切性		0名	3名	9名	6名	0.8

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
1名	5名	10名	2名

3) 樹木・樹林等の保存支援

<評価>

評価項目	評価点	(大いにある ←————→ ない)				平均点
		3点	2点	1点	0点	
必要性		9名	8名	1名	0名	2.4
緊急性		3名	9名	6名	0名	1.8
手法の適切性		2名	13名	3名	0名	1.9

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
1名	13名	4名	0名

2日目 討議④ Aグループ (19名)

地球温暖化対策の推進

- ①区民の低炭素な暮らしとまちづくりへの取り組みの促進・支援
- ②事業者の低炭素な暮らしとまちづくりへの取り組みの促進・支援
- ③区が率先して取り組む地球温暖化対策

<班別の主な意見>

A-1

- ・初期投資後、細く長く展開できる計画が必要
- ・「新宿らしさ」のある施策に注力すべき
- ・全体目標達成までのロードマップを示すべき
- ・マンション・企業・道路を重点ポイントに
- ・学校での環境教育を強化すべき

A-2

- ・新建設物への庭園・太陽光発電設置の義務化
- ・中小企業へのISO取得支援・補助のアピール強化
- ・区民の意識の向上の為、家電製品などの購入時の特典制度
- ・課外授業などへの取り入れにより子供などにも参加できるようにする
- ・パンフレット等を駅、病院などに置き身近なものにする

A-3

- ・区民への対策としては具体的な行動メニューを示すことが大事。個別助成は費用対効果をよく考えるべき
- ・事業者対策の事業の目標値が低く事業の実施効果が疑問。方法論としては、事業者のインセンティブを高める手法を中心に再検討
- ・取組を実感できる仕組みを作り、意識啓発や区民の参加を引き出す工夫が必要

A-4

- ・街作りとして、空家が多くなり駐車場（マンション建設）になっている。住宅地に多くなっている駐車場の問題（アスファルトの問題・透水性・義務づけ）
- ・西日対策として地域に声掛け（すだれ・ゴーヤ・打ち水等）。やっている人たちは確かにいるのでその人たちからのアプローチ
- ・新宿エコ隊に参加可能事業所をつのる（70%有る10人未満の事業所<意識改革→個人へつながる。隊員証でなく隊員事業所という看板>）
- ・節電の効果が明確に出来る装置（メーター・料金までも出る）

■事業評価・判定

1) 区民の低炭素な暮らしとまちづくりへの取り組みの促進・支援

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点	白票等
	3点	2点	1点	0点		
必要性	17名	2名	0名	0名	2.9	0名
緊急性	10名	7名	2名	0名	2.4	0名
手法の適切性	6名	10名	1名	0名	2.1	2名

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
9名	7名	3名	0名

2) 事業者の低炭素な暮らしとまちづくりへの取り組みの促進・支援

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	14名	4名	1名	0名	2.7
緊急性	10名	7名	2名	0名	2.4
手法の適切性	8名	7名	4名	0名	2.2

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
9名	7名	3名	0名

3) 区が率先して取り組む地球温暖化対策

<事業評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点	白票等
	3点	2点	1点	0点		
必要性	14名	5名	0名	0名	2.7	0名
緊急性	10名	7名	2名	0名	2.4	0名
手法の適切性	7名	9名	1名	0名	2.1	2名

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
12名	5名	2名	0名

2日目 討議④ Bグループ (18名)

ごみ発生抑制を基本とするごみの減量とリサイクルの推進

①資源回収の推進

②プラスチックの資源回収の推進

③ごみの発生抑制の推進

<班別の主な意見>

B-1

- ・個人の意識改革の推進
- ・資料・チラシ等、不必要な配布・・・
- ・学校等教育の場で教える
- ・エコポイント・景品を新宿区内で使用できる商品券に
- ・23区内、または都内での連携

B-2

- ・分別の為の教育が必要で、外国のようにごみ量に応じた料金負担を考える
- ・企業レベルでゴミの発生を減らす仕組みを推進、チェックも必要
- ・資源ごみを洗うことで水が汚れる。本当に環境にやさしいか疑問
- ・エコ自慢ポイントは魅力がないので廃止

B-3

- ・全体的にアピールが不足。配布資料も存在を知らなかった
- ・違法投棄の対策はどうお考えか？
- ・エコ自慢ポイント、レジ袋辞退の推進について不明確
- ・ゴミの分類方法がわかりづらい、分別ボックスを置く等対応して欲しい
- ・費用の掛け加減が分からない。焼却炉を区でもつのはどうか？

B-4

- ・資源回収の推進、啓蒙に力を入れる。効率 up
- ・有価資源ならば可能な限り高価で売る
- ・「買う時には捨てる時の事も考えて」啓蒙
- ・エコ自慢ポイント、子供にも分かる様にして教育に組み入れる。子供のおこづかい、返還を容易にする。

■事業評価・判定

1) 資源回収の推進

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	15名	2名	1名	0名	2.8
緊急性	8名	6名	4名	0名	2.2
手法の適切性	3名	10名	3名	2名	1.8

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
6名	12名	0名	0名

2) プラスチックの資源回収の推進

<事業評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	12名	4名	2名	0名	2.6
緊急性	7名	7名	4名	0名	2.2
手法の適切性	3名	8名	4名	3名	1.6

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
5名	13名	0名	0名

3) ごみの発生抑制の推進

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	11名	3名	3名	1名	2.3
緊急性	7名	4名	6名	1名	1.9
手法の適切性	3名	5名	5名	5名	1.3

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
6名	7名	3名	2名

2日目 討議④ Cグループ (18名)

自転車等の適正利用の推進

- ①駐輪場等の整備
- ②放置自転車の撤去及び啓発
- ③自動二輪車の駐車対策

<班別の主な意見>

C-1

- ・駐輪場の整備（野ざらしにしない建物、出し入れしやすい設備）
- ・駐輪場のパンフレットを作る（場所や空き情報の提供、警告キップに添付する）
- ・時間貸の駐輪場を作る（短時間利用は返金制にして利用を促す）
- ・自転車を買った人に驥足のパンフレットを配る、小学校等でマナーを教える、保保険の加入を進める
- ・撤去の日にちを決めない、声かけ以外も兼務する

C-2

- ・駅を主体に考えているが、公共施設についても検討が必要ではないか
- ・車輪の中の自転車の位置付けがあいまい（自転車の免許制・自転車の全面登録番号制、ナンバープレート）
- ・人件費の割合が高すぎる。人材センター、ボランティア等を活用
- ・タイム24との提携等をし、小規模で設置箇所を多くする

C-3

- ・行政が今まで通りやれるところは維持して、変更点を加える所は変えて、やった政策の内容はPRしていく
- ・行政以外にも個人も意識を持てるようにしていく
- ・二輪メーカーからの反発はないのか

C-4

- ・駐輪代が高すぎる、保管料も高すぎる
- ・強制力を持って一斉の撤去をこころみる。教育（小学校）を徹底する
- ・国・都・区でやるべきこと（やれること）をはっきりする。（自転車道）成功例を探す
- ・（提言です…）自転車を売る側もまきこんで登録番号制にする（インターネットで変更可能とする）
- ・（提言です…）区で震災用の自転車の確保も含めた再利用（シェアリング）

■事業評価・判定

1) 駐輪場等の整備

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	10名	6名	2名	0名	2.4
緊急性	7名	6名	5名	0名	2.1
手法の適切性	3名	6名	8名	1名	1.6

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
6名	8名	3名	0名	1名

2) 放置自転車の撤去及び啓発

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	12名	6名	0名	0名	2.7
緊急性	10名	4名	4名	0名	2.3
手法の適切性	3名	5名	9名	1名	1.6

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
9名	5名	3名	0名	1名

3) 自動二輪車の駐車対策

<事業評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	11名	6名	1名	0名	2.6
緊急性	9名	7名	2名	0名	2.4
手法の適切性	4名	6名	8名	0名	1.8

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
5名	10名	2名	0名	1名

2日目 討議⑤ Aグループ (19名)

路上喫煙対策の推進

<班別の主な意見>

A-1

- ・喫煙場所を増やすべき（新宿西口、高田馬場）
- ・パトロール強化（費用をかけない方法、く地域のコンビニに協力）住人に有償ボランティアを募り、生活道路の美化参加）等町会支援
- ・罰金を設ける、タバコの値上げ等が必要なのか？
- ・喫煙場所や道路をキレイにすることで意識を育てる

A-2

- ・喫煙場所を増やしてほしい
- ・パトロール目的を複合的にして見直しをしてほしい
- ・重点地区を設置し、成果を上げるシステムを造り水平展開
- ・第一次実行計画の結果（実態状況）から新たな施策を生み出してほしい
- ・マナーの徹底化、（外国人）生活文化の違い

A-3

- ・禁止は周知されたので、罰則設定はあり（期間を区切るなどでもよい）
- ・喫煙場所の費用（設置・管理）はJTに頼らず区でも負担する
- ・生活道路（通学路など）の喫煙者チェックをPTA・地元の人に依頼
- ・パトロールの効果測定を実施（一定期間やめて変化をみるなど）
- ・（区役所などで）喫煙を人事評価に関連させる

A-4

- ・喫煙場所を確保するため企業との連携強化（条例で一定規模以上の企業に喫煙場所設置を努力義務とし、設置助成する等）
- ・行きたくなる喫煙所（ベンチ・自販機設置）を増やし、喫煙者が集まるよう工夫
- ・一定期間に目標を達成するためのロードマップを作製し、計画的な取組と施策効果の測定が必要

■事業評価・判定

1) 路上喫煙対策の推進

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ←————→ ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	11名	7名	1名	0名	2.5
緊急性	7名	7名	3名	2名	2.0
手法の適切性	1名	12名	6名	0名	1.7

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
6名	8名	5名	0名

2日目 討議⑤ Bグループ (18名)

高齢者を地域で支えるしくみづくり

- ①認知症高齢者支援の推進
- ②地域安心カフェの展開
- ③支援付き高齢者住宅の整備

<班別の主な意見>

B-1

- ・すべてにおいて、スタッフが少なすぎる（お給料も少ない）
- ・民生委員の選出方法が不明 申請後時間がかかる
- ・ほっと安心カフェの充実 歳を重ねるのが楽しくなる様に
- ・住宅は充実してほしい 入居代を落としてほしい

B-2

- ・個々の地域の人たちが熱意を持って認知症高齢者を支える
- ・安心カフェのピーアール（内容の告知）
- ・支援付高齢者住宅の民間企業参入の促進を早くする

B-3

- ・全体的に計画が漠然としている
- ・若い世代（子供）のボランティアの活用
- ・支援付住宅整備より1人暮らしの高齢者サポート

B-4

- ・認知症サポーターの必要性に疑問。物理的ケアを拡充してほしい
- ・後見人制度の拡充のほうが急務ではないのか
- ・カフェでの活動内容 当事者のニーズに答えていない（年寄り扱いしすぎる）スマートフォン、メイク
- ・支援付き住宅 活動内容は難しくわかりづらいが支援付き 住宅の必要性は強く感ずる

■事業評価・判定

1) 認知症高齢者支援の推進

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	15名	1名	2名	0名	2.7
緊急性	13名	2名	3名	0名	2.6
手法の適切性	3名	6名	8名	1名	1.6

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
11名	5名	2名	0名

2) 地域安心カフェの展開

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	6名	6名	5名	1名	1.9
緊急性	4名	7名	5名	2名	1.7
手法の適切性	1名	4名	11名	2名	1.2

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
6名	8名	3名	1名

3) 支援付き高齢者住宅の整備

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	10名	6名	2名	0名	2.4
緊急性	9名	7名	2名	0名	2.4
手法の適切性	3名	8名	5名	2名	1.7

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
7名	5名	4名	1名	1名

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
8名	6名	3名	0名	1名

2) 認証保育所への支援

<事業評価>

評価項目	評価点 (大いにある ←————→ ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	12名	6名	0名	0名	2.7
緊急性	11名	6名	1名	0名	2.6
手法の適切性	7名	9名	2名	0	2.3

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
8名	9名	0名	0名	1名

3) 保育園・幼稚園の子ども園への一元化

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ←————→ ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	11名	5名	1名	1名	2.4
緊急性	10名	3名	4名	1名	2.2
手法の適切性	7名	7名	3名	1名	2.1

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
7名	8名	1名	1名	1名

2日目 討議⑥ Aグループ (19名)

地域協働学校（コミュニティ・スクール）の推進

<班別の主な意見>

A-1

- ・モデル校、他自治体の問題点の整理・分析を強化
- ・協働委員の権限・業務範囲の明確化
- ・学校の情報の透明化・公開を進める
- ・継続的に問題を扱いための専任者設置

A-2

- ・(評価内容) 地域力を活かすために、学校に提言できる機関として非常によい
- ・(問題点) 協働学校の配置やメンバーの人選などの考慮
- ・活動内容の公開の方法 (HP 作成やセキュリティレベル)、存在の周知
- ・(提案) 子供たちの意見も吸い上げられる様な体制作りも期待

A-3

- ・多数の学校で最初に導入したデータを取り地域住民へアピール等をしてほしい
- ・学校制・地域側のメリットを明確にし、活用する
- ・実際の活動が不透明な為、必要性が見えてこない

A-4

- ・学校にとっては、多様な教育を行うためには有効な手法、地域にとっても地域のつながりを育んだり、将来の担い手育成となりメリットがある。互いに win-win な関係を築くことができる形で進めることが大事
- ・地域の人にとって参加しやすい環境作りが大事 (時間帯を夜とか日曜の午前にする、活動内容を広げる)
- ・地域・保護者・学校ができることを持ち寄り建設的に教育のあり方を議論できる場として育てていくことが大事

■事業評価・判定

1) 地域協働学校（コミュニティ・スクール）の推進

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	9名	10名	0名	0名	2.5
緊急性	4名	11名	4名	0名	2.0
手法の適切性	5名	12名	1名	1名	2.1

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止	白票等
3名	14名	1名	0名	1名

2日目 討議⑥ Bグループ (18名)

障害者、高齢者、若年非就業者等に対する総合的な就労支援 雇用促進支援の充実

<班別の主な意見>

B-1

- ・ 事業内容・成果と事業費が合っていない
- ・ 対象者が不明確
- ・ 雇用促進支援と就労支援の統合

B-2

- ・ 障害者・高齢者支援の充実し、しかし障害者・高齢者も勇気をもってがんばること
- ・ 雇用者側も障害者に対して差別なく平等に（遠慮がちに感じる）
- ・ 若年層に対して別枠で考えたい
- ・ 促進支援の違った方向はないか？（インターンシップ制度など）

B-3

- ・ ハローワークとの違いがわからない
- ・ 告知不足（リーフレットがどこにあるかわからない）
- ・ 55歳でなぜ区切りをつける
- ・ 費用対効果

B-4

- ・ 国のハローワーク 区の仕事支援センターや新宿わく☆わーく とすみわけが不明確でハローワークのみで良いではないか？
- ・ この件に関しては税金の無駄遣いだからさっきの高齢者支援に回した方がいいです
- ・ 就労支援や促進支援ばかりでなく区として具体的に雇用を促進すべきではないか

■事業評価・判定

1) 障害者、高齢者、若年非就業者等に対する総合的な就労支援

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	4名	7名	3名	4名	1.6
緊急性	4名	4名	6名	4名	1.4
手法の適切性	1名	5名	3名	9名	0.9

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
2名	3名	9名	4名

2) 雇用促進支援の充実

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	3名	4名	5名	6名	1.2
緊急性	3名	1名	8名	6名	1.1
手法の適切性	1名	3名	5名	9名	0.8

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
1名	2名	7名	8名

2日目 討議⑥ Cグループ (18名)

新中央図書館等の建設

図書館サービスの充実（区民に役立つ情報センター）

<班別の主な意見>

C-1

- ・中央図書館は補強工事を施し、継続使用
- ・新中央図書館候補地（戸山中学校）は交通の便があまり良くない（利便性が悪い）
- ・図書館サービスは現在のレベルで充分。インターネット利用で各自でできる
- ・インターネットの利用時間を30分から1時間に延長。またプリンターを導入し、有料で使用できるようにする

C-2

- ・図書館の使命は？情報の拠点に区がお金をかける必要はない
- ・本の文化（古典・古文）をもっと楽しめる環境づくりをして欲しい
- ・区の教育施設との貸出の連携
- ・老朽化は予想できたはずなのに何をしていたのか？
- ・仮は本当に必要なのか？金の無駄にならないのか？

C-3

（新中央図書館等）

- ・旧戸山中学校の校舎をそのまま使えないのか
- ・今まで討議した内容をすべて網羅した夢の図書館を作ってはどうか（みどり・空中庭園・災害トイレ・治水・キッズルーム〈保育士〉・シェア自転車を利用・少しでもなら有料あり

（図書館サービス）

- ・バリアフリー、空間を仕切（静かな）、カフェ、レストラン、ミニシアター（デザイナーを入れる）
- ・老眼鏡、視覚障害者用音で聴けるサービス。p/cで高齢者が簡単に利用できるサービス
- ・もっと検討しよう

C-4

- ・災害時の避難所になるような新中央図書館の建設
- ・駅の近くに図書館がほしい（せめて窓口だけでも…）
- ・身近なサービスの充実。講習会、シアター、カフェ、i pad 貸出
- ・返却を郵送にする、インターネットの充実（台数確保）
- ・中小企業診断士、情報コンシェルジュは不要

■事業評価・判定

1) 新中央図書館等の建設

<評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)				平均点
	3点	2点	1点	0点	
必要性	1名	5名	4名	8名	0.9
緊急性	1名	1名	5名	11名	0.6
手法の適切性	0名	1名	7名	10名	0.5

<判定>

拡大	原案どおり	縮小	廃止
1名	2名	8名	7名

2) 図書館サービスの充実 (区民に役立つ情報センター)

<事業評価>

評価項目	評価点 (大いにある ← → ない)					平均点
	3点	2点	1点	0点	白票等	
必要性	3名	2名	8名	5名	0名	1.2
緊急性	0名	3名	6名	9名	0名	0.7
手法の適切性	1名	0名	8名	8名	1名	0.6

<判定>

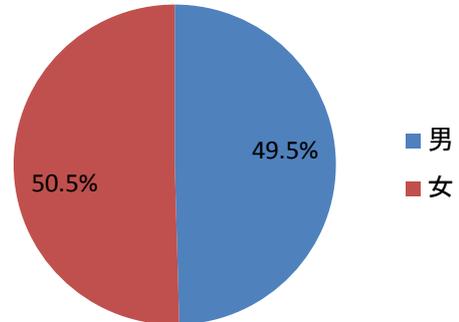
拡大	原案どおり	縮小	廃止
3名	1名	8名	6名

参加者の属性

1 男女比

(1) 区全体

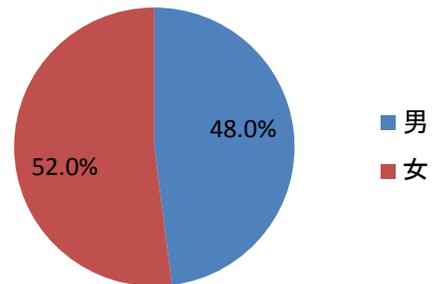
性別	人数	割合
男	128,221	49.5%
女	130,550	50.5%
計	258,771	100.0%



(注1) (1)の人数は、住民基本台帳及び外国人登録データ(永住者及び特別永住者)における満18歳以上の男女数(基準日:平成23年8月16日)

(2) 無作為抽出者

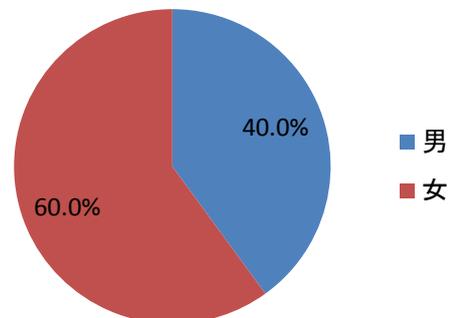
性別	人数	割合
男	576	48.0%
女	624	52.0%
計	1,200	100.0%



(注2) 無作為抽出の方法は、上記(1)から1,200人を層化抽出法により行なった。

(3) 参加者

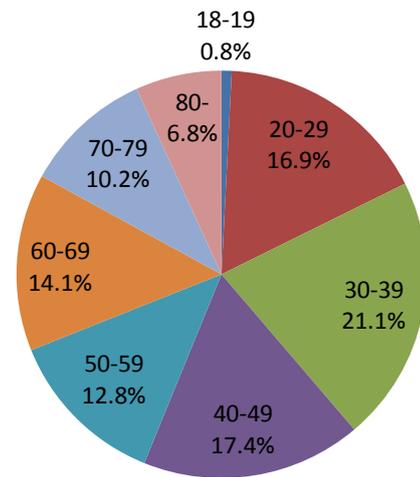
性別	人数	割合
男	22	40.0%
女	33	60.0%
計	55	100.0%



2. 年齢別

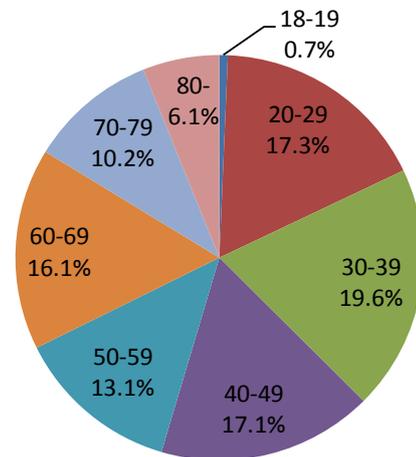
(1) 区全体

年齢(歳)	人数	割合
18-19	2,072	0.8%
20-29	43,615	16.9%
30-39	54,669	21.1%
40-49	44,923	17.4%
50-59	33,098	12.8%
60-69	36,424	14.1%
70-79	26,387	10.2%
80-	17,583	6.8%
計	258,771	100.0%



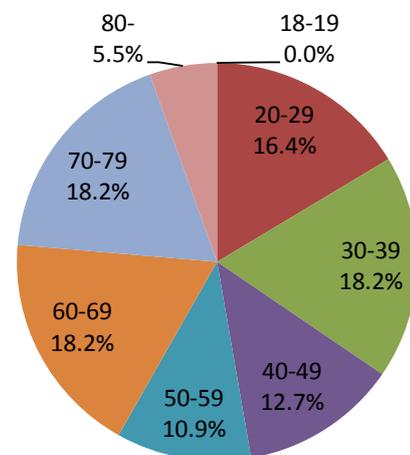
(2) 無作為抽出者

年齢(歳)	人数	割合
18-19	8	0.7%
20-29	207	17.3%
30-39	235	19.6%
40-49	205	17.1%
50-59	157	13.1%
60-69	193	16.1%
70-79	122	10.2%
80-	73	6.1%
計	1,200	100.0%



(3) 参加者

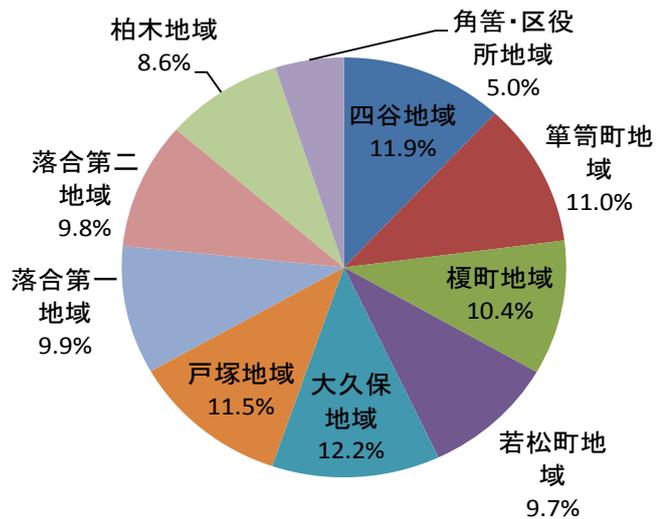
年齢(歳)	人数	割合
18-19	0	0.0%
20-29	9	16.4%
30-39	10	18.2%
40-49	7	12.7%
50-59	6	10.9%
60-69	10	18.2%
70-79	10	18.2%
80-	3	5.5%
計	55	100.0%



3. 地域別

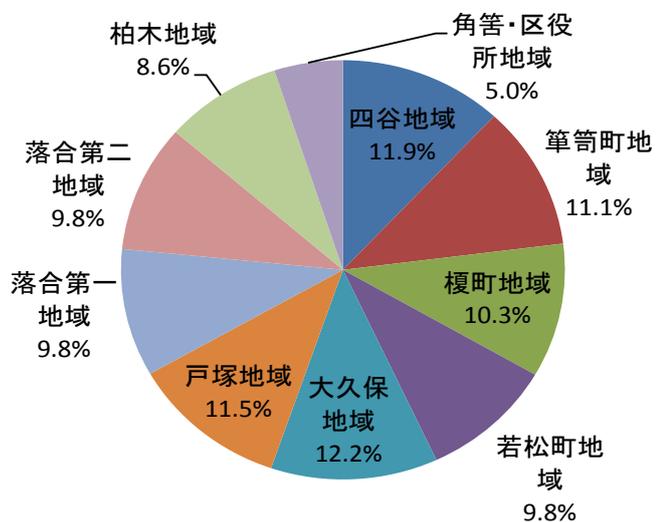
(1) 区全体

地域	人数	割合
四谷地域	30,813	11.9%
筆筈町地域	28,559	11.0%
榎町地域	26,811	10.4%
若松町地域	25,110	9.7%
大久保地域	31,656	12.2%
戸塚地域	29,845	11.5%
落合第一地域	25,510	9.9%
落合第二地域	25,289	9.8%
柏木地域	22,275	8.6%
角筈・区役所地域	12,903	5.0%
計	258,771	100.0%



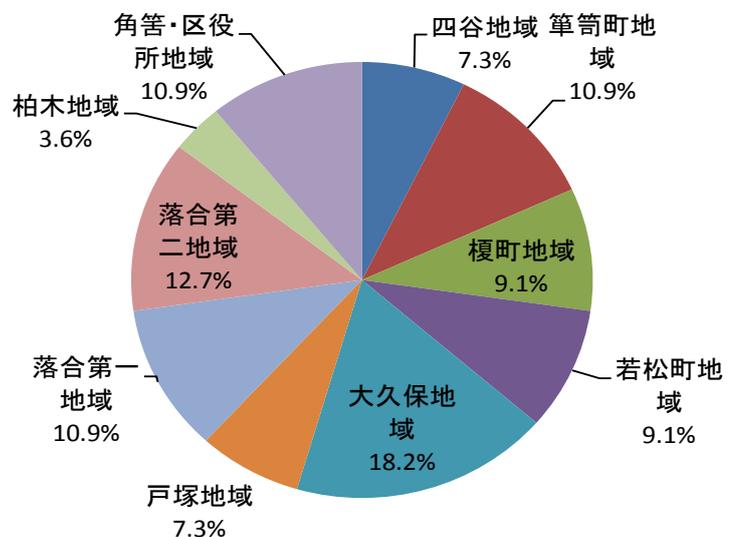
(2) 無作為抽出者

地域	人数	割合
四谷地域	143	11.9%
筆筈町地域	133	11.1%
榎町地域	124	10.3%
若松町地域	117	9.8%
大久保地域	146	12.2%
戸塚地域	138	11.5%
落合第一地域	118	9.8%
落合第二地域	118	9.8%
柏木地域	103	8.6%
角筈・区役所地域	60	5.0%
計	1,200	100.0%



(3) 参加者

地域	人数	割合
四谷地域	4	7.3%
筆筈町地域	6	10.9%
榎町地域	5	9.1%
若松町地域	5	9.1%
大久保地域	10	18.2%
戸塚地域	4	7.3%
落合第一地域	6	10.9%
落合第二地域	7	12.2%
柏木地域	2	3.6%
角筈・区役所地域	6	10.0%
計	55	100.0%



参加者名簿

(敬称略 アイウエオ順)

	氏 名		氏 名
1	安里 章子	29	須見 久子
2	A. T	30	成 華珍
3	荒 正治	31	関 静江
4	五十嵐 加耶子	32	苏 志博
5	池澤 真子	33	高野 翠
6	石川 昭治	34	高橋 房子
7	石川 直美	35	竹田 誠
8	石川 佳明	36	田中 和美
9	榎本 繁夫	37	田中 美知子
10	岡	38	田村 竜一
11	岡 三郎	39	中尾 朱観
12	岡谷 規子	40	中河西 宏
13	片山 美奈子	41	新飯田 兼
14	勝又 仁美	42	廣瀬 千奈美
15	加藤 汐理	43	松永 巖
16	加藤 秀子	44	丸山 隆二
17	金子 照子	45	宮田
18	倉持 貞雄	46	宮原 諭
19	黒澤 誠	47	谷中 照美
20	黒田 隆弘	48	矢野 絹枝
21	神志那 奈央	49	山下 孝之
22	小西 弘之	50	山田 昭子
23	小林 幸子	51	山本 篤
24	小松 睦子	52	山本 浩二
25	齋藤 和子	53	吉岡 実保
26	櫻井 雄貴	54	吉住 千絵
27	柴田 綾子	55	渡邊 倭文子
28	澁江 美和子		

*参加者ご本人の希望により、一部、氏のみ又はイニシャルでの表記になっています。